

『マタニティ診断にもとづく 母性看護過程の授業設計』 5年という歳月をかけて 築き上げた授業設計

監修：青木康子／定価：本体 3,200 円 + 税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



看護関係資料集によると、全国の大学、大学院以外の基礎看護教育機関養成所数は、平成 25 年度で 773 校あり、2008(平成 20)年の 707 校から 66 校増加している。そのうち 3 年課程養成所は 565 校で 73.1% を占め、臨床現場の看護マンパワー育成としては現在も存在感が高い。

本書は、このような 3 年課程の基礎看護教育現場で、「母性看護学論」「妊婦・産婦の看護」「褥婦・新生児の看護」「周産期にあるハイリスク時の看護」および「母性看護実習」を学科目とした授業設計を、実にコンパクトに精選された構成でまとめている。

母性看護学は、ほかの教科のような問題解決志向とは異なり、ウェルネス志向であるという特殊性がある。本書はそのことを何度も強調しつつ、母性看護学教員に必要な授業設計の基礎理論と、授業設計を学習する新人教員や臨床実習指導者、そして、立場をかえた教育実習担当教員が共有できる実用書として大いに活用できる内容となっている。

とりわけ、「母性看護学論」「妊婦・産婦の看護」「褥婦・新生児の看護」「周産期にあるハイリスク時の看護」の授業案から、母性看護の基礎知識を統合するための「母性看護実習」のレディネスを高め、臨床実習への適応を助長するための学内演習

の授業案および成績評価の実施方法までが組み込まれ、母性看護教育の現場でただちに用いることができる。

注目すべきは、ウェルネス診断を用いた看護過程を実にわかりやすく記述し、看護過程に必要な母性看護各期の対象の診断過程の記録用紙から、ケア計画のための記録用紙に至るまで、第 1 章から第 6 章までに、説得力ある資料が惜しげなく組み込まれていることである(35 種)。

学習者である看護学生の効力感や到達感の高い学習過程を担保する母性看護学を担当する教員にとって、価値ある参考書である。特に、教員養成課程の学習を経ないまま 4 年生大学看護教育課程の助手・助教として入職した新人教員にとっては、得がたい参考書である。

本書は、1971(昭和 46)年度から、歴史的に長きにわたり貢献してきた東京都看護教員養成講座の流れを受け継ぐ東京都立看護専門学校幹部母性看護学教員である執筆者グループが、5 年という長い期間、忍耐強く積み上げ学習された専門分野の授業設計に関する検討結果であり、指導者である青木康子先生がスーパーバイザーとして監修された珠玉の一冊である。